

令和 3 年度教育課程進度計画表



関西医療学園専門学校
東洋医療鍼灸学科（夜間）

分 野	基礎分野		
教育内容	科学的思考の基盤・人間と生活		
講義名	医療経営学		
授業方法	講 義		
単位数	2 単位		
時間数	3 0 時間		
学 科	東洋医療鍼灸学科（夜間）	配当年次	3 年
必修・選択区分	必 修		
実務経験			

講義内容・目標	事業及び個人のお金に関する知識のうち何がポイントとなるかを明確にした上で、必要とされる知識をイメージしやすいように身近な話や時事的なトピックと結び付けながら、面白く且、楽しみながら身に付けていくことを目標とする。		
授業計画	1	総 論（申告・税金についての概要 1 回目）	
	2	"（申告・税金についての概要 2 回目）	
	3	"（申告・税金についての概要 3 回目）	
	4	個人事業とサラリーマン（給与所得者）の違い 青色申告・白色申告とは何か	
	5	専従者給与について	
	6	個人事業と法人（会社）との違い	
	7	開業資金借入について・住宅ローンについて	
	8	公的保険制度について（社会保険と国保・国民年金）	
	9	決算書の仕組み 仕訳の基礎知識 第 1 回目（簿記総論 現金主義）	
	10	仕訳の基礎知識 第 3 回目（発生主義）	
	11	仕訳の応用（減価償却について）	
	12	決算書作成のポイント	
	13	確定申告書作成のポイント	
	14	復習	
	15	まとめ	

成績評価	筆記試験
評価基準	6 0 点以上（1 0 0 点満点）

分 野	専門基礎分野		
教育内容	人体の構造と機能		
講義名	人体の構造と機能		
授業方法	講 義		
単位数	2 単位		
時間数	4 0 時間		
学 科	東洋医療鍼灸学科（夜間）	配当年次	3 年
必修・選択区分	必 修		
実務経験	はり師，きゅう師		

講義内容・目標	各関節の筋肉・動作、正常歩行・異常歩行について学ぶ。		
授業計画	1	人体の構造と機能（Ⅴ）	
	2	てこ	
	3	関節の運動	
	4	姿勢とその異常	
	5	運動路と感覚路（下行性伝導路）	
	6	"（上行性伝導路）	
	7	反射と随意運動（脊髄反射）	
	8	"（連合反応と共同運動）	
	9	脊柱・体幹の機能	
	10	脊柱の動きと筋の作用	
	11	胸郭の動きと呼吸筋の作用	
	12	肩甲骨・肩の機能	
	13	肩甲骨上腕リズム	
	14	肘と前腕の機能	
	15	回内・回外運動	
	16	手と手指の機能	
	17	骨盤の機能	
	18	膝関節の機能	
	19	足の機能	
	20	正常歩行	
		異常歩行	

成績評価	筆記試験
評価基準	6 0 点以上（1 0 0 点満点）

分 野	専門基礎分野		
教育内容	疾病の成り立ち、その予防及び回復の促進		
講義名	リハビリテーション医学		
授業方法	講 義		
単位数	2 単位		
時間数	4 0 時間		
学 科	東洋医療鍼灸学科（夜間）	配当年次	3 年
必修・選択区分	必 修		
実務経験	はり師，きゅう師		

講義内容・目標	リハビリテーションの総論・各論について学ぶ。		
授業計画	1	リハビリテーションの概要	
	2	医学的リハビリテーションの概要	
	3	障害の評価（機能障害）	
	4	障害の評価（能力低下）	
	5	医学的リハビリテーション（理学療法、作業療法）	
	6	"（言語療法）	
	7	脳卒中のリハビリテーション（麻痺と合併症）	
	8	"（急性期、回復期リハビリテーション）	
	9	脊髄損傷（高位診断）	
	10	"（回復期リハビリテーション）	
	11	切断のリハビリテーション	
	12	脳性麻痺のリハビリテーション	
	13	骨・関節疾患のリハビリテーション（五十肩）	
	14	"（腰痛）	
	15	"（変形性膝関節症）	
	16	関節リウマチのリハビリテーション	
	17	末梢神経障害のリハビリテーション	
	18	パーキンソン病のリハビリテーション	
	19	呼吸器疾患のリハビリテーション	
	20	心疾患のリハビリテーション	

成績評価	筆記試験
評価基準	6 0 点以上（1 0 0 点満点）

分 野	専門基礎分野		
教育内容	疾病の成り立ち、その予防及び回復の促進		
講義名	臨床医学各論		
授業方法	講 義		
単位数	4 単位		
時間数	8 0 時間		
学 科	東洋医療鍼灸学科（夜間）	配当年次	3 年
必修・選択区分	必 修		
実務経験	はり師，きゅう師		

講義内容・目標	各疾患の特徴・症状などについて理解できる。		
授業計画	1	消化器疾患	
	2	〃	
	3	呼吸器疾患	
	4	〃	
	5	循環器疾患	
	6	〃	
	7	血液疾患	
	8	内分泌および代謝疾患	
	9	〃	
	10	アレルギーおよび膠原病	
	11	感染症	
	12	腎・尿路疾患	
	13	〃	
	14	神経内科および脳神経外科の主要症候	
	15	脳血管障害	
	16	〃	
	17	〃	
	18	感染症および炎症性疾患	
	19	脳腫瘍	
	20	神経系の変性疾患	
	21	〃	
	22	末梢神経疾患	
	23	関節疾患	
	24	筋疾患	
	25	骨疾患	
	26	形態異常	
	27	頸腕症候群	
	28	腰痛・坐骨神経症候群	
	29	脊髄損傷	
	30	スポーツ医学	
	31	一般外科	
	32	麻酔科	
	33	眼科疾患	
	34	耳鼻咽喉科疾患	
	35	皮膚科疾患	
	36	小児科疾患	
	37	婦人科疾患	
	38	歯科口腔疾患	
	39	泌尿器科疾患	
	40	精神科疾患	【付】 検査値とその解釈

成績評価	筆記試験
評価基準	6 0 点以上（1 0 0 点満点）

分 野	専門分野		
教育内容	臨床はり学，臨床きゅう学		
講義名	臨床東洋医学		
授業方法	講 義		
単位数	4 単位		
時間数	8 0 時間		
学 科	東洋医療鍼灸学科（夜間）	配当年次	3 年
必修・選択区分	必 修		
実務経験	はり師，きゅう師		

講義内容・目標	鍼灸臨床で遭遇する各疾患の病態を理解して的確な鍼灸治療につなげる知識を得る。		
授業計画		臨床東洋医学（Ⅱ）	
	1	ガイダンス 鍼灸基礎技術の理論	
	2	鍼灸基礎技術の理論	
	3	"	
	4	"	
	5	低周波鍼通電器の使用方法的説明と実践	
	6	足関節疾患の病態把握	
	7	足部疾患の病態把握	
	8	下腿部疾患の病態把握	
	9	膝関節疾患の病態把握	
	10	"	
	11	"	
	12	股関節疾患の病態把握	
	13	"	
	14	"	
	15	腰部疾患の病態把握	
	16	"	
	17	"	
	18	頸肩部疾患の病態把握	
	19	"	
	20	"	
	21	肩関節疾患の病態把握	
	22	"	
	23	"	
	24	肘関節疾患の病態把握	
	25	"	
	26	手関節疾患の病態把握	
	27	頭痛の病態把握	
	28	顎関節疾患の病態把握	
	29	内科系疾患の病態把握	
	30	"	
	31	"	
	32	"	
	33	"	
	34	"	
	35	"	
	36	特殊鍼灸実技Ⅰ	
	37	"	
	38	"	
	39	"	
	40	"	

成績評価	学修成果評価
評価基準	6 0 点以上（1 0 0 点満点）

分 野	専門分野		
教育内容	臨床はり学, 臨床きゅう学		
講義名	臨床東洋医学		
授業方法	講 義		
単位数	2 単位		
時間数	4 0 時間		
学 科	東洋医療鍼灸学科 (夜間)	配当年次	3 年
必修・選択区分	必 修		
実務経験	はり師, きゅう師		

講義内容・目標	東洋医学的な病態把握とそれに対する適切な治療原則、治療方針、治療法を理解する。		
授業計画	1	臨床東洋医学 (Ⅲ)	
	2	弁証方法 (八綱弁証)	
	3	" " (気血津液弁証)	
	4	" " (六経弁証)	
	5	" " (衛気営血弁証 三焦弁証)	
	6	弁証方法 (臟腑弁証)	
	7	" " (経絡弁証 六淫弁証)	
	8	" " (六経弁証)	
	9	弁証方法 (経絡弁証 六淫弁証)	
	10	" " (六経弁証)	
	11	" " (衛気営血弁証 三焦弁証)	
	12	標本と主客	
	13	治 則 (扶正去邪 治病求本・標本同治)	
	14	" (陰陽の調整 正治と反治 天 (時)・地・人)	
	15	治 法 (治法八法 生理物質・臟腑の病証に対する治法)	
	16	" (臟腑の病証・外感病・症候・その他に対する治法)	
	17	治療法 (はり・きゅうの補瀉)	
	18	治療法 (選穴の原則 特定穴の応用)	
	19	古代刺法	
	20	弁証の進め方と証の決定	

成績評価	筆記試験
評価基準	60 点以上 (100 点満点)

分 野	専門分野		
教育内容	臨床はり学，臨床きゅう学		
講義名	臨床東洋医学		
授業方法	講 義		
単位数	4 単位		
時間数	8 0 時間		
学 科	東洋医療鍼灸学科（夜間）	配当年次	3 年
必修・選択区分	必 修		
実務経験	はり師，きゅう師		

講義内容・目標	現代医学に基づいて症状から疾患を鑑別し、鍼灸治療の適応・不適応を判断できる。東洋医学の観点から、現れる症候から弁証を行い、その治療内容について説明できる。		
授業計画	1	臨床東洋医学（Ⅳ）	
	2	オリエンテーション・東洋医学復習（基礎理論）	
	3	東洋医学復習（気血津液精）	
	4	東洋医学復習（五臓六腑）	
	5	東洋医学復習（病因・病機）	
	6	東洋医学復習（気血津液病証）	
	7	東洋医学復習（臓腑病証）	
	8	頭痛	
	9	顔面痛	
	10	顔面麻痺	
	11	歯痛	
	12	眼精疲労	
	13	鼻閉・鼻汁	
	14	めまい	
	15	脱毛症・インポテンツ	
	16	耳鳴りと難聴	
	17	咳嗽	
	18	喘息	
	19	胸痛（特発性肋間神経痛）	
	20	前期定期試験	
	21	試験解説	
	22	胸痛（带状疱疹）	
	23	排尿障害	
	24	肩こり	
	25	頸肩腕痛	
	26	肩関節痛	
	27	上肢痛	
	28	腰下肢痛	
	29	膝痛	
	30	運動麻痺	
	31	高血圧・低血圧	
	32	食欲不振	
	33	肥満	
	34	発熱	
	35	不眠	
	36	小児の症状	
	37	スポーツ医学（野球肩、テニス肘）	
	38	スポーツ医学（腰、膝、下肢）	
	39	老年医学	
	40	まとめ	

成績評価	筆記試験
評価基準	60 点以上（100 点満点）

分 野	専門分野		
教育内容	社会はり学，社会きゅう学		
講義名	社会はき学		
授業方法	講 義		
単位数	1 単位		
時間数	2 0 時間		
学 科	東洋医療鍼灸学科（夜間）	配当年次	3 年
必修・選択区分	必 修		
実務経験	はり師，きゅう師		

講義内容・目標	救命救急を要する対象疾患の特徴（病態、診断、治療）を理解し、鍼灸師としての必要な処置について学習する。		
授業計画	1	社会はき学（Ⅱ）	
	2	医療過誤 折鍼の予防とその対策 感染の予防とその対策（消毒含む）	
	3	医療過誤 気胸の予防とその対策	
	4	医療過誤 失神（脳貧血）の予防とその対策	
	5	医療過誤 火傷の予防とその対策	
	6	医療過誤 出血について 止血の方法	
	7	応急処置 意識の確認 意識の確認の手順 呼吸、脈拍、血圧の確認	
	8	応急処置 気道確保について 上手な気道確保の仕方	
	9	応急処置 人工呼吸について 人工呼吸の注意点 胸骨圧迫について 正確な胸骨圧迫	
	10	応急処置 人工呼吸について AED について AED の使用方法とその注意点 体位変換について 気道閉塞への対応	

成績評価	学修成果評価
評価基準	60 点以上（100 点満点）

分 野	専門分野		
教育内容	実 習		
講義名	はりきゅう実技		
授業方法	実 技		
単位数	3単位		
時間数	90時間		
学 科	東洋医療鍼灸学科（夜間）	配当年次	3 年
必修・選択区分	必 修		
実務経験	はり師，きゅう師		

講義内容・目標	鍼灸治療が適応となる各疾患の鍼灸臨床技能を身につける。		
授業計画	1	はりきゅう実技（Ⅳ）（Ⅴ）	
	2	ガイダンス 鍼灸基礎技術の復習Ⅰ	
	3	鍼灸基礎技術の復習	
	4	"	
	5	"	
	6	低周波鍼通電器の使用方法的説明と実践	
	7	足関節疾患に対する鍼灸治療実技	
	8	足部疾患に対する鍼灸治療実技	
	9	下腿部疾患に対する鍼灸実技	
	10	膝関節疾患に対する鍼灸治療実技	
	11	"	
	12	"	
	13	"	
	14	股関節疾患に対する鍼灸治療実技	
	15	"	
	16	"	
	17	腰部疾患に対する鍼灸治療実技	
	18	"	
	19	"	
	20	頸肩部疾患に対する鍼灸治療実技	
	21	"	
	22	"	
	23	"	
	24	肩関節疾患に対する鍼灸治療実技	
	25	"	
	26	"	
	27	"	
	28	肘関節疾患に対する鍼灸治療実技	
	29	"	
	30	手関節疾患に対する鍼灸治療実技	
	31	頭痛に対する鍼灸治療実技	
	32	顎関節疾患に対する鍼灸治療実技	
	33	内科系疾患に対する鍼灸治療実技	
	34	"	
	35	"	
	36	"	
	37	"	
	38	"	
	39	"	
	40	"	
	41	トリガーポイント	
	42	"	
	43	"	
	44	"	
	45	"	

成績評価	学修成果評価
評価基準	60点以上（100点満点）

分 野	専門分野		
教育内容	臨床実習		
講義名	臨床実習		
授業方法	実 習		
単位数	4 単位		
時間数	1 8 0 時間		
学 科	東洋医療鍼灸学科（夜間）	配当年次	3 年
必修・選択区分	必 修		
実務経験	はり師、きゅう師		

講義内容・目標	患者とのコミュニケーションが図れること。四診が行えること。診察により病態を把握できること。治療方針を立て基本的な施術が行えること。カルテ記載ができること。受付業務ができることを目標とする。
授業計画	1) ～ 90) までの実習内容 〔実習内容〕 ・ 受付業務および患者とのコミュニケーション ・ 患者との医療面接（問診）とコミュニケーション ・ 患者への診察（四診） ・ 病態の検討および把握（弁証） ・ 治療計画（治療方針・治療法）の検討および決定 ・ 施術 ・ カルテの記載 以上の実習内容を教員の指導のもとに行う。受け付け業務は当番制で行う。 受付業務は当番制で行う。

成績評価	学修成果評価
評価基準	6 0 点以上（1 0 0 点満点）

分 野	専門分野		
教育内容	総合領域		
講義名	東洋医学総合講義		
授業方法	講 義		
単位数	3 単位		
時間数	6 0 時間		
学 科	東洋医療鍼灸学科（夜間）	配当年次	3 年
必修・選択区分	必 修		
実務経験	はり師、きゅう師		

講義内容・目標	過去に学んだ東洋医学概論、東洋医学臨床論、経絡経穴学、はりきゅう理論を総合的に理解し、過去の国家試験問題を解けるようになる		
授業計画	1	東洋医学の思想(陰陽・五行)	
	2	東洋医学における生理と病理	
	3	四 診	
	4	弁証論治	
	5	東洋医学の疾病観	
	6	治療論	
	7	疾病治療総論	
	8	疾病治療各論(循環器)	
	9	" (呼吸器)	
	10	" (消化器)	
	11	" (泌尿器)	
	12	" (生殖器)	
	13	" (整形外科)	
	14	" (徒手検査)	
	15	" (スポーツ疾患)	
	16	要 穴(五行穴・五俞穴)	
	17	" (四総穴、八会穴、八脈交会穴、下合穴)	
	18	要穴の取穴	
	19	疾病治療の経穴	
	20	奇穴(特効穴)	
	21	刺鍼の方法と術式	
	22	灸の基本知識と灸術の種類	
	23	鍼灸の臨床応用	
	24	リスク管理	
	25	鍼灸治効の基礎	
	26	鍼灸療法の一般的治効理論	
	27	関連学説	
	28	神経生理	
	29	まとめ復習	
	30	"	

成績評価	卒業筆記試験
評価基準	6 0 点以上（1 0 0 点満点）

分 野	専門分野		
教育内容	総合領域		
講義名	特殊療法		
授業方法	講 義		
単位数	3 単位		
時間数	6 0 時間		
学 科	東洋医療鍼灸学科（夜間）	配当年次	3 年
必修・選択区分	必 修		
実務経験	はり師，きゅう師		

講義内容・目標		本科目では各療法の特徴を知り、使用場面をしっかりと見極められるようになる。	
授業計画		特殊療法（Ⅲ）	
	1	手鍼法	
	2	スキン鍼法	
	3	頭皮鍼法	
	4	頭髮際鍼法	
	5	小児鍼法	
	6	金属粒療法	
	7	耳鍼療法	
	8	"	
	9	皮内鍼法	
	10	円皮鍼法	
	11	灸頭鍼法	
	12	"	
	13	奇経療法	
	14	"	
	15	澤田流灸法	
	16	"	
	17	深谷流灸法	
	18	"	
	19	経筋治療	
	20	"	
	21	M-Test1	
	22	"	
	23	良導絡治療	
	24	"	
	25	神経刺鍼療法	
	26	"	
	27	低周波鍼通電療法	
	28	"	
	29	新穴の臨床応用	
	30	奇穴の臨床応用	

成績評価	学修成果評価
評価基準	6 0 点以上（1 0 0 点満点）

分 野	専門分野		
教育内容	臨床はり学，臨床きゅう学		
講義名	鍼灸総合療法		
授業方法	講 義		
単位数	3 単位		
時間数	6 0 時間		
学 科	東洋医療鍼灸学科（夜間）	配当年次	3 年
必修・選択区分	必 修		
実務経験	はり師，きゅう師		

講義内容・目標	痛くない鍼の刺し方、熱くない灸の仕方から、患者さんのどこに病の核があるかの確定診断ができ、治療で きること。 トリガーポイント療法の基礎的技術を用いて、安全面に配慮した刺鍼・徒手アプローチができる。			
授業計画	鍼灸総合療法（Ⅲ－１）		鍼灸総合療法（Ⅲ－２）	
1	①鍼灸臨床の進め方 ②診療録の存在意義	1	トリガーポイント論の概要	
2	①鍼通電療法の概要と基本操作 ②脳血管障害後遺症に対する鍼灸治療	2	トリガーポイントアプローチのための触察法	
3	一次性頭痛に対する鍼灸治療	3	腰痛罹患構造のマーキングポイント	
4	末梢性顔面神経麻痺に対する鍼灸治療	4	体表投影図描画実習 1	
5	頸椎症に対する鍼灸治療	5	体表投影図描画実習 2	
6	肩関節周囲炎に対する鍼灸治療	6	徒手のアプローチの基本	
7	非特異的腰痛に対する鍼灸治療	7	腰痛に対するトリガーポイントアプローチ（徒手）：多裂筋 腸肋筋	
8	変形性膝関節症に対する鍼灸治療	8	腰痛に対するトリガーポイントアプローチ（徒手）：腸肋筋	
9	胃腸疾患・症状に対する鍼灸治療	9	腰痛に対するトリガーポイントアプローチ（徒手）：腰方形筋	
10	パーキンソン病に対する鍼灸治療	10	腰痛に対するトリガーポイントアプローチ（徒手）：中殿筋	
11	維持透析合併症に対する鍼灸治療	11	腰痛に対するトリガーポイントアプローチ（徒手）：大腰筋 大殿筋	
12	慢性閉塞性肺疾患（COPD）に対する鍼灸 治療	12	腰痛に対するトリガーポイントアプローチ 1（鍼）	
13	下肢末梢循環障害に対する鍼灸治療	13	腰痛に対するトリガーポイントアプローチ 2（鍼）	
14	耳鳴に対する鍼灸治療	14	腰殿部のトリガーポイントアプローチ（徒手）まとめ	
15	眼精疲労に対する鍼灸治療	15	腰殿部のトリガーポイントアプローチ（鍼・徒手）まとめ	

成績評価	筆記試験
評価基準	6 0 点以上（1 0 0 点満点）